

第5学年C組 総合的な学習の時間学習指導案 (障害者理解にかかわる学習)

授業者 保坂 智子
研究協力者 細川 和仁

1 単元名 ともに支え合って ～「つながり」から「かかわり合い」へ～

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

子どもたちは、1年生から特別支援学校の子どもたちとの交流を積み重ねてきている。1・2年生では、歌やゲームと一緒に楽しむ活動を行った。3・4年生では、交流内容を企画したり、特別支援学校の友達にうどんの作り方を教わったりした。交流の様子からは、1年生からの経験を生かしながら特別支援学校の子どもたちに優しく声をかけたり、作業を手伝ったりする場面が多く見られた。障害者理解についての見地が広がりつつある。また、4年生の総合的な学習の時間には、高齢者や障害のある人の生活についてアイマスクや車いす体験などの疑似体験を通して、理解を深めた。障害の有無にかかわらず、みんなが笑顔になるためにどんなにかかわり方ができるか、自分たちの行動を見つめ直す学習を通して、相手の立場に立って考えたり、かかわったりすることの大切さに気づき始めている。

(2) 単元について

子どもたちは、学校生活において様々な場面で友達とかかわり合い、学び合っている。学習を深めていくためには、友達との相互理解は不可欠である。ただ、同じ学習をしても一人一人の感じたことや意識の差は大きい。また、学校の延長上にある実社会においても、これらからかかわり合う人々と互いを思いやり、支え合うことが大切であり、自分と異なった状況にある人たちについての相互理解が重要となってくる。

本単元では、特別支援学校の子どもたちとの交流活動を通して相互理解を深めていく。これまででは、互いの良さや違いに気付いたり、一緒に活動したりすることを目標として活動してきた。これからは一緒に活動するだけでなく、互いの考えを尊重し、自分ができることをその時のかかわり合いを通して考えながら行動していくことを目標とした活動にしていきたい。そこで、特別支援学校の施設や授業風景を見学し、自分たちが通っている小学校との類似点や相違点、その設備がどのように生活に役立っているか考えたり、互いに楽しむことができる活動を企画・提案したりする活動を通して、**自分の願いをもって自分や周囲に対して適切に働きかけるという資質・能力**を高めることをねらいとした。障害の有無にかかわらず互いに助け合い分かり合うことの大切さをさらに理解し、実際に学んだ知識を生かしてかかわっていかうとする態度を育てることができる単元である。

(3) 指導について

この単元では**交流学習やインタビューなどを通して事実をとらえ、特別支援学校の子どもたちへの理解を深め、相手の気持ちに寄り添ったかかわり合いについての考えをもつという「見方・考え方」**を大切にしていく。

まず、「気付く」の段階では、4年生までの交流学習を想起することを通して、単元の見通しをもつことができるようにする。特別支援学校の施設を見学し、あおば学級の子どもたちと交流することにより、かかわり方を見つめ直したり、交流についての課題を見いだしたりする。

次に、「見つめる」の段階では、見学や交流での疑問を解決したり、今後のかかわり方を見つめ直したりすることができるように、特別支援学校の教師から障害の特性や配慮する点などについて話を聞いたり質問したりする場を設定する。ここでは、特別支援学校の子どもたちの思いや配慮しなければいけないことなどを整理する活動を取り入れて、障害のある人についての見地を広げる。そこで、理解したことをもとに、障害の有無にかかわらず、互いに楽しくかかわることができる活動を企画し、グループごとに準備する活動を設定する。そして、相手の気持ちに寄り添った自分たちの活動の在り方について考えることができるように、本番で活動が予定通り進まない場合を想定する活動を取り入れる。

最後の「働きかける」の段階では、再度あおば学級の子どもたちとの交流学習を行い、考えた遊びを一緒に楽しむ場を設定する。そして、相手の状況に合わせたかかわり方を意識して実践できたかを振り返る場を設定し、今後どのようなかかわり方ができそうか考えられるようにする。単元の終わりには自分が今できる、相手の気持ちに寄り添ったかかわり方について振り返り、学んだ知識や技能を共有することができるようにする。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

◆ 障害のある人を支えるかかわりや設備について調べたり、交流したり考えたりする活動を通して、共生についての見方や考え方を広げ、相手の気持ちを考えながらかかわっていかうとする。

(1) 障害のある人の思いに寄り添ったかかわり合いや、気持ちよく生活できるように手助けする道具・設備についての疑問をもとに、課題を設定することができる。 (A-b)

(2) 自分の課題について実際に行き行って確かめたり、聞いたりして必要な情報を収集することができる。 (A-d)

(3) 障害のある人の思いに寄り添ったかかわり合いについて体験したり、考えたりしたことを、総合的に活用しながら交流活動に取り組もうとする。 (B-c, C-b・c)

4 単元の構想 (総時数10時間)

4年 きらり みんなの笑顔があふれる まちⅡ ～みんなが笑顔になるために よりよいかかわり合いを求めて～

○本単元で育む主な資質・能力
自分の願いをもって自分や周囲に対して適切に働きかける。

(B・C)

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価〈本校の資質・能力との関連〉
1	(1) 4年生までの特別支援学校との交流をふり返り、5年生での交流の見通しをもつ。	・ これからの学習での課題を見いだすことができるように、特別支援学校の子どもたちについて分かっている事、もっと知りたい事などを確かめる場を設定する。	・ 学習経験や生活経験をもとに、交流学習について追究したい自分なりの課題を設定している。〈A-b〉
2 気付く	(2) 特別支援学校を見学し、あおば学級と交流活動を行う。 ・ 先生たちがゆっくり話しかけているのは、どうしてかな。 ・ 学校の中は段差が少ないね。	・ 障害についての理解を深めることができるように、小学校と特別支援学校の施設面での類似点、相違点に気を付けながら施設見学をするよう助言する。	・ 障害のある人の思いに寄り添ったかかわり合いや、気持ちよく生活できるように手助けする道具・設備について調べたり、考えたりしようとしている。〈A-d〉
3 見つめる	(3) 特別支援学校の見学・あおば学級との交流活動をふり返り、交流の課題を整理する。	・ 次の活動への見通しや目的意識をもつことができるように、見学や交流で気が付いたことや見いだしたことを話し合う場を設定する。	・ 自分の課題について話を聞いて事実を確かめたり、インタビューしたりして、必要な情報を収集しようとしている。〈A-d〉
4	(4) 特別支援学校の友達への理解を深めるために、交流で配慮することを整理する。	・ 交流する際に配慮することについて一人一人が意識することができるように、特別支援学校の教諭からの話の内容を障害の特性や、好みなど整理しながら板書する。	・ 互いを尊重し、協力していくことの大切さに気付き、障がいのある人とかかわるときに大切にしたいことを自分なりに考えている。〈A-d〉
5 6 7 8 本時	(5) あおば学級の子どもたちも自分たちも互いが楽しむことができる活動を企画し、準備する。 ・ 風船バレーは、大きな風船を使おう。	・ 互いが楽しめる活動に必要なポイントを確かめながら準備することができるように、説明を聞き合ったりアドバイスしたりする場を設定する。	・ 障害のある人の気持ちに寄り添ったかかわり合いについて体験したり、考えたりしたことを、総合的に活用しながら、交流に向けて準備をしている。〈B-c, C-b・c〉
9 働きかける	(6) あおば学級の子どもたちと交流する。	・ 相手の気持ちに寄り添ったかかわり合いを意識しながら活動することができるように、活動の目的やかかわり方について確認する。	・ 障害のある人の気持ちに寄り添ったかかわり合いについて体験したり、考えたりしたことを、総合的に活用しながら、交流活動に取り組んでいる。〈B-c, C-b・c〉
10	(7) 自分たちが考えた遊びで交流したことから分かったことをもとに、互いを尊重したかかわり合いについて振り返る。 ・ ゆっくりだと聞きやすいみたいだから、話しかけるときはゆっくり話そう。	・ 考えや行動が変容したことを実感したり、一人一人考えをもったりすることができるように、「今の自分たちにできるかかわり合い」を視点にふり返る場を設定し、今まで体験したり考えたりした学習を自覚し、これからの交流学習や給食交流に生かすことができるようにする。	・ 障害のある人の気持ちに寄り添ったかかわり合いについて体験したり、考えたりしたことを総合的に活用しながら、これから自分ができることを考えている。〈C-c〉

○本単元の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」
交流学習やインタビューなどを通して事実をとらえ、特別支援学校の子どもたちへの理解を深め、相手の気持ちに寄り添ったかかわり合いについて考える。

5 本時の実際 (8/10)

(1) ねらい 交流活動のリハーサルを通して、特別支援学校の友達の気持ちに寄り添いながら一緒に楽しく活動するためのかかわり方について考えることができる。

(2) 展開

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
2分	① 本時の学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動に見通しをもって取り組むことができるように前時までの活動をふり返る場を設定する。
学習課題 2回目の交流学習に向けて、一緒に楽しむことができる活動のリハーサルをしよう。		
7分	② 活動内容を確認する。 ・ 説明の仕方は、短くできたね。 ・ やっぱり、やり方の手本を示す場面を入れるといいな。	<ul style="list-style-type: none"> 早く練習が終わったグループには、グループ内で気になる点があれば確認し合うよう声をかける。
13分	③ 本番を想定しながら互いのグループのを聞き合ったり見合ったりして、活動の確認をする。 ・ 言葉を短くしたらいいよ。 ・ もう少しゆっくり話をしたほうがいい。 ・ 前回よりもよくなったよ。	<ul style="list-style-type: none"> 本番に生かすことができるように、互いに気になる点やよかった点などをアドバイスするよう声をかける。 アドバイスされたことで、共通理解した方がよいことがあれば、全体の場で取り上げて確認する。
15分	④ 活動が予定通り進まない場合を想定して、対応の仕方を考える。 ・ 楽しい気持ちになれないなら、無理させたくないな。 ・ 何回か呼びかけてもだめなら、私たちが代役をやる。	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちに寄り添った自分たちの活動の在り方を考えることができるように、「もし活動に参加してもらえなかったとしたら、どうするか」と問う。そして、予定外の出来事をあえて想定し、どのように対応するかグループで話し合う場を設定する。
8分	⑤ 本時の学習をふり返り、次時の見通しをもつ。 ・ 練習通りにやるよりも、一緒に楽しみながら活動することが大切だね。 ・ リハーサルみたいにできないかもしれない。状況に合わせて、進め方を変えなければいけないな。	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校の友達とかかわり合う際に、大切にしたいことを明らかにすることができるように、「交流学習で気を付けたいこと」「自分も相手も楽しむために大切にしたいこと」という視点を提示し、それらから選択してふり返りをするよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> 相手の気持ちに寄り添うことが大切であるという視点をもち、一緒に楽しむためのかかわり方を考えている。 (B-c, C-b・c) (発言・シート) </div>